

景観計画に付随する地域資源図に関する研究

1G06J028-3 川田 武尊*

Takeru KAWATA

景観法に基づく景観計画は平成21年10月1日時点で策定数が198に達した。まちづくりにおいて地域資源への関心が高まる中、景観計画の中でも、地域資源図という地図が作成されている。本研究では、景観計画の中で用いられている地域資源図の描かれ方（資源数、ゾーニング、街路情報、凡例数など）を整理・分類した。そして、各タイプについて抽出された資源や作成過程、地域の特徴などの観点から考察し、タイプごとの特徴を明らかにした。また、事例考察によって、地域資源図の持つ2つの役割を明らかにした。

Keywords : 景観計画、地域資源、地図

1. 研究の背景・目的

平成15年7月の美しい国づくり政策大綱、平成16年6月の景観法施行に伴い、各自治体単位で地域の個性を生かした景観形成が行われ、景観に対する関心が高まっている。景観法に基づく景観計画の数も増加し、平成21年10月1日時点でその策定数は198件（景観計画策定団体は194団体）、景観行政団体も418団体までに増加した。

また、まちづくりにおける地図の利用は広がってきており、長崎さるくマップなどの紙媒体のまち歩きマップを始め、インターネット書込地図型情報交流システム「カキコまっぷ」^{1) 2) 3)} や駒込のまちづくりに関する情報や資料などを掲載した「駒込まちづくりHP」、地域の景観をHP上に写真・説明付きで載せた「彦根市景観マップ」など様々なデジタル地図の活用も見られる。

このように、すべてのまちには魅力があるという考えのもと、様々な地域資源の保全・創出を目指したまちづくりが各地で行われている。こうした地域資源への関心は景観計画においてもみられ、それは地域資源図に表れている。地域の資源を視覚的に表現した資源図は、場所と地域資源を強く結びつけ、地域の特徴を表す媒体であると同時に、その作成過程において住民の意識を育てるという効果があると考えられる。

そこで本研究では、既存の景観計画198件の中で用いられている地域資源図に着目し、その現況把握と特色を明らかにすることを目的とする。具体的には描かれ方

や記載された資源、作成過程、地域の特徴との関係性などを把握する。これによって、今後、景観計画において地域資源図を作成する際の一助とする。

2. 研究の概要

2.1 本研究の位置づけ

地域資源の評価構造に着目した研究には、小規模中小町村を対象とし、地域住民の意識調査から地域資源の位置づけと評価構造を明らかにした研究⁴⁾ や、過疎化が進行する中山間地域の活性化手法、一般の都市において地域の発展と環境の持続性のために検討されるべき課題として地域資源の活用を位置づけ、市民・市民グループ・専門家の3者を対象として、地域に内在する地域資源に対する価値認識の相違の実態を明らかにした研究⁵⁾ などが見られた。

景観法に基づく景観計画に関する研究には、景観計画の策定プロセスに着目した研究⁶⁾ や自主条例からの移行による景観形成制度の進展状況を評価した研究⁷⁾、届け出制度に着目した研究^{8) 9) 10)}、眺望景観保全にかかわる方針や保全のための制限事項について、その特徴を調査・分析した研究¹¹⁾、景観計画の内容から他制度との連動の必要性を指摘した研究¹²⁾ などが見られた。

まちづくりに用いられる地図に関する研究には、大きな住宅地図を用いてまち歩きを疑似体験する「ガリバー地図」に関する研究¹³⁾ や、前述した「カキコまっぷ」に関する研究^{1) 2)} などが見られた。

本研究の特色は、景観法に基づく景観計画に用いられている地域資源図に着目し、その現況把握と特色を明らかにしようとした点にある。

2. 2 研究対象

国土交通省都市・地域整備局景観まちづくりHPの景観計画一覧に掲載されている景観計画（ここでいう景観計画には、自主条例に基づいて定められている「景観基本方針」や「景観基本計画」等を用いて置き換えられたものを含む）を対象とする。平成21年10月1日現在、全国で198件の景観計画が策定されているが、都道府県の計画に関しては、市町村の計画とスケールが異なるため除外し、182件を対象とする。

182件の景観計画の中、80件に地域資源図が存在した。本研究では、この80件の地域資源図を対象とする。

なお、景観計画の策定年度と団体数に着目すると、地域資源図を含んだ景観計画の比率は平成20年まで横ばいだったが、平成21年にやや増加している（図2.1）。

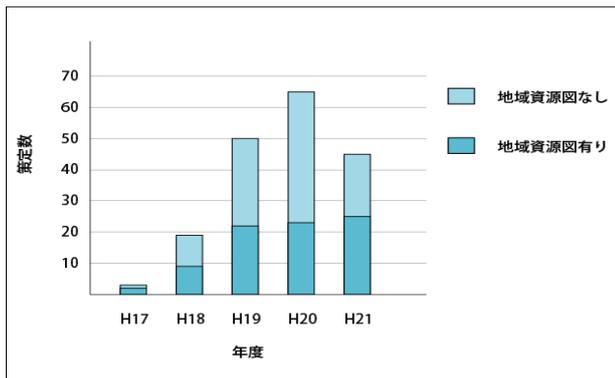


図 2.1 年度別景観計画策定数 ※平成21年のデータは10月1日時点

2. 3 地域資源図の定義

ある地域において人々が肯定的に捉える有形・無形の対象を地域資源とし、それを図上に表現したものを地域資源図とする。ただし、ただ単に地域をゾーニングしたものや、地図作成者に地域の資源を抽出しようという意図が見られないと判断できるものは除くものとし、その地図を見て、その地域の特徴が読み取れることを条件とする。

2. 4 研究の方法

以下の手順で研究を進める。

1) 研究対象の決定

平成21年10月1日時点で策定されている景観計画182件（都道府県除外）から地域資源図が描かれてい

る景観計画80件を抽出する。

2) 資源図のタイプ分類

80件の景観計画に存在する地域資源図の描かれ方に着目し、そのデータをもとに、クラスター分析を行い、資源図を分類する。その結果をもとに、各タイプの資源図の作成過程や記載されている資源、地域の特色との関係性などを考察する。考察の際、資源図の作成過程などの基本的な情報は各自治体のHPや文献調査、ヒアリング調査によって得る。

3) 事例考察

また、これらのタイプ分けされた地域資源図の中で、代表的な事例を選び、より詳しい考察をする。

3. 地域資源図の現況把握

3. 1 地域資源図の計画内における位置づけ

地域資源図の景観計画内における位置づけを示す。景観形成基本方針や目標などと関連付けて掲載されているものが36件、景観特性や現況を把握するにとどまっているものが33件、資料編として計画の中身と関連が見られないものが17件見られた。

3. 2 地域資源

地域資源図の中で、資源としてどのようなものが記載されているかを述べる。川・山・公園・緑地などの自然系資源や神社・寺院・文化財・旧街道などの歴史・文化系資源、鉄道・道路・橋などのインフラ資源が見られた。

無形の資源としては、祭りなどの地域行事・その場所に伝わる伝説・住民団体の景観形成活動などが記載されている。

3. 3 地域資源図の表現の整理

80件の景観計画に見られる地域資源図自体の描かれ方に着目し、現況を把握する。記載されている資源の数、単位面積あたりの資源の数、地図単位枚数あたりの資源の数、ゾーニング表現、地形情報、街路情報、凡例数をまとめ表にした（表3.1）。

単位面積あたりの資源数は、1件の景観計画の中の地域資源図で抽出されている資源の数を、資源図が描かれている箇所の面積で除したもので、資源の密度である。

ゾーニング表現は、資源図の中で何種類のゾーンによる区分けがなされているかを示す値で、これは資源図の色彩の多様さとも関わってくる。

地形情報は、川と標高に注目し、その両方が地図から読み取れるものは2、どちらか片方のみ読み取れるもの

を1、読み取れないものを0とし、3種に分けた。

街路情報は、国道・高速道路よりも詳細な街路があるものを2、国道・高速道路などの主要な道路のみあるものを1、街路の情報がないものを0とし、3種に分けた。

表3.1 地域資源図の整理

最終行政団体	策定年月日	地域資源図の名称	資源の数	単位面積あたりの資源数	ゾーニング	地形	街路	凡例数
旭川市	H18.3.23	まち並み分譲図	27	0.04	27.0	7	1	15
清里町	H20.3.28	清里町の景観特性	30	0.07	30.0	3	1	12
東川町	H18.11.17	東川町条例制定景観形成要綱	75	0.81	75.0	0	2	8
湯前町	H18.11.17	湯前町条例制定景観形成要綱	29	0.07	29.0	3	2	8
黒松内町	H21.4.1	黒松内町管内図	22	0.06	22.0	0	2	3
青森市	H18.9.1	景観方針	116	0.14	116.3	7	2	28
一関市	H18.12.26	景観形成基本方針	133	1.74	133.0	0	2	22
一関市	H21.3.24	主要景観資源の状況(山、川、里、街、道、駅、歴史・文化)	195	0.16	30.0	0	1	1
遠野市	H18.3.1	景観形成地区図	55	0.07	55.0	3	1	7
北上市	H21.9.30	景観資源マップ	86	0.20	14.3	0	1	0
仙台市	H21.3.17	名称なし	93	0.12	23.3	5	2	5
秋田市	H21.3.31	景観資源	105	0.12	15.0	0	2	12
秋田市	H20.12.22	景観形成を促す地区図	95	0.25	11.0	5	0	2
つくば市	H19.10.1	つくば市の景観形成	25	0.09	25.0	4	1	12
宇都宮市	H19.9.1	景観資源	43	1.21	43.0	3	1	2
宇都宮市	H19.9.26	景観資源	85	0.29	14.2	5	1	10
小山市	H19.10.23	景観形成基本方針	73	0.43	73.0	0	2	14
伊勢崎市	H19.3.1	資源分布図(自然系、歴史・文化系、都市系)、地景別景観計画	379	2.72	37.9	2	2	38
高崎市	H21.4.1	景観形成方針	292	0.60	24.3	6	2	20
高崎市	H21.10.1	景観資源図(自然系、都市系、歴史的)	92	0.75	30.7	3	1	21
川崎市	H19.3.30	市域に於ける景観形成方針	54	0.97	54.0	6	1	12
崎市	H19.11.20	都市景観資源マップ	815	7.99	203.8	10	2	30
南川市	H18.4.1	自然景観・歴史的景観・まち並みの基本要素、景観マップ	110	1.92	27.5	11	1	35
筑後市	H18.10.23	景観資源	93	2.15	18.8	9	2	17
市原市	H20.12.22	景観形成のまちづくり(市民活動・歴史的建造物の継承・表彰制度)	29	0.08	29.0	0	1	1
浦安市	H21.6.1	景観形成の方針	106	6.13	21.2	0	2	28
浦安市	H21.6.2	景観形成の方針	571	6.22	51.9	5	2	28
新宿区	H21.4.1	景観資源	1150	63.55	15.3	24	2	184
足立区	H21.6.1	景観資源等の状況、市街地景観・自然景観・歴史・文化・まち並み景観の状況	167	3.14	16.7	8	1	2
港区	H21.8.1	景観資源	150	7.37	30.0	0	1	1
鎌倉市	H19.3.1	景観資源	86	2.17	86.0	4	1	11
鎌倉市	H20.7.1	景観資源	90	2.92	90.0	0	2	6
座間市	H20.8.4	座間市の景観資源	308	17.52	308.0	5	1	18
大和市	H20.3.28	景観ネットワークの骨格図	88	3.25	88.0	0	1	11
浦河町	H19.3.16	浦河町の景観資源	45	1.10	45.0	0	1	9
平塚市	H20.12.11	景観資源(自然系、都市系、歴史的系、都市系)、景観形成とまちづくり	679	10.01	97.0	12	2	76
箱根町	H21.4.2	景観資源(地形、特徴的街並み、建造物や並木)	127	1.37	31.8	7	2	23
高山村	H20.9.1	高山村景観資源分類、眺望を活かした山村周遊ルートのイメージ	185	1.88	92.5	2	2	1
三浦市	H21.7.1	景観資源	388	3.24	129.3	6	2	33
佐久市	H21.8.31	景観資源	139	0.93	139.0	5	2	18
新井市	H20.3.12	新井市の景観資源	125	0.23	125.0	11	2	24
上田市	H21.7.30	上田市の景観資源	77	0.08	77.0	3	2	1
高岡市	H21.8.1	景観資源	54	0.54	54.0	7	2	18
多治見市	H21.3.31	名称なし	49	0.54	49.0	5	2	16
名寄市	H18.3.31	景観資源(景観資源)	30	0.34	30.0	6	2	6
岐阜市	H20.4.1	景観資源	827	0.52	131.8	3	2	20
岐阜市	H21.7.1	景観資源	85	0.35	21.3	3	2	2
豊田市	H20.3.27	景観資源(景観資源)	75	0.08	18.8	1	1	18
大山市	H20.4.1	景観資源	222	2.96	44.4	6	2	0
小浜市	H19.11.20	景観資源	53	0.11	53.0	9	2	1
大野市	H19.5.31	名称なし	69	0.08	69.0	2	2	1
坂井八幡市	H17.7.28	大野市景観資源計画の目標イメージ	4	0.26	4.0	3	2	2
坂井八幡市	H19.12.22	景観資源	24	0.45	24.0	0	1	8
佐野市	H20.6.30	佐野市の景観資源	28	0.03	28.0	5	2	1
原宿市	H19.9.1	景観資源(景観資源)	99	0.12	49.5	9	2	15
鎌倉市	H20.3.31	景観資源	79	2.17	79.0	0	0	12
鎌倉市	H20.3.31	景観資源	230	6.27	144.4	5	1	2
神戸市	H18.1.1	景観形成方針	86	0.17	98.0	3	2	1
神戸市	H18.12.22	景観形成方針	12	0.30	12.0	11	1	16
岐阜市	H20.3.27	景観資源	100	0.63	11.1	11	1	18
松江市	H19.3.26	景観資源	41	0.08	41.0	0	2	2
津和野町	H20.9.26	景観資源(景観資源、ノド、川の景観、眺望景観)	198	0.64	49.5	0	1	6
出雲市	H20.3.18	出雲市内の主要景観資源	33	0.06	33.0	2	1	0
岡山県	H19.12.22	景観資源	117	0.15	117.0	4	2	11
倉敷市	H21.9.30	景観形成方針	143	0.40	14.3	3	1	9
姫路市	H18.11.17	景観形成方針	52	0.18	10.4	6	1	14
宇野市	H18.12.22	景観資源	69	0.21	69.0	5	1	6
上野市	H21.5.22	景観資源	71	0.65	71.0	3	2	1
宇和島市	H19.4.2	景観資源	186	0.40	186.0	0	2	1
徳島市	H21.7.1	景観資源	177	1.59	44.3	2	1	14
徳島市	H20.3.31	景観資源	130	0.27	130.0	0	2	1
徳島市	H20.6.2	徳島市の文化財、長崎街道	162	0.52	51.0	0	2	1
市川市	H21.2.27	景観資源	200	0.79	33.3	3	2	20
山梨市	H20.12.15	山梨市の景観資源	7	0.02	7.0	8	2	1
寄北町	H20.12.15	寄北町の景観資源	7	0.10	7.0	0	0	0
大分市	H19.3.22	大分市の景観資源	26	0.05	26.0	0	1	0
別府市	H20.3.31	景観形成方針	63	0.50	63.0	11	2	22
宮崎市	H19.10.1	景観資源	19	0.05	19.0	0	1	5
津波市	H19.7.1	景観資源	257	13.46	28.6	3	2	25
球磨村	H21.4.1	景観資源(景観資源)	22	0.63	7.3	6	2	1

3.5 タイプ別考察

分類した4タイプをタイプA(資源高密度・多情報型)、タイプB(多資源・複数枚型)、タイプC(少資源・単数枚型)、タイプD(平均型)とし、各タイプの特徴を考察する。なお、各タイプのイメージ図を図3.2に、各タイプの平均と全体平均を表3.2に示す。

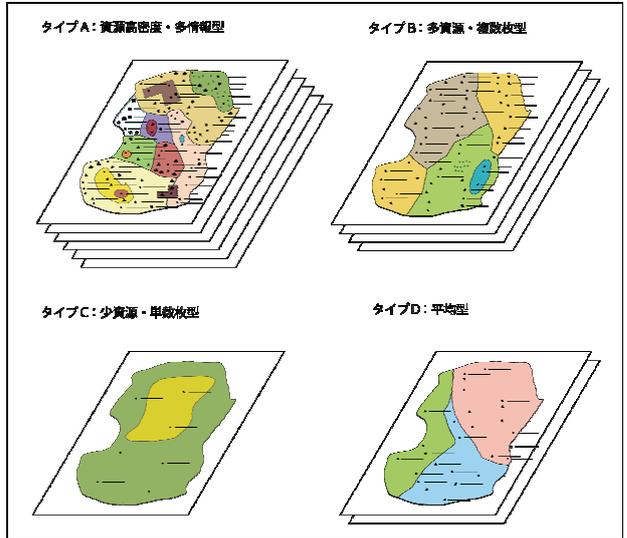


図3.2 資源図タイプイメージ図

表3.2 タイプ平均と全体平均

タイプ	資源の数	単位面積あたりの資源数	1資源図あたりの資源数	ゾーニング	地形	街路	凡例数	資源図枚数	面積(km ²)	人口	人口密度
タイプA	8102	9.9	114.9	13.2	2	1.8	73	20.4	11280	511,449	4534
タイプB	232.1	3.6	59.9	3.4	1.5	1.5	21.2	6.9	247.02	240,813	756.8
タイプC	34.6	0.7	31.1	4.0	1.4	1.1	8.0	1.4	310.38	146,643	472.5
タイプD	99.9	1.5	65.3	3.5	1.7	1.2	14.4	2.8	381.50	305,180	800.0
全体	130.0	1.6	61.7	4.0	1.6	1.3	17.1	4.2	314.60	240,813	765.5

3.5.1 タイプA 資源高密度・多情報型

このタイプは、柏市、世田谷区、平塚市、静岡市、新宿区とわずか5件のみだが、記載されている資源数が他事例に比べて極端に多く、資源の密度も大きい値を示している。また、ゾーニング数、凡例数も多く、多彩な表現により地域の特徴を表現しているといえる。

1) 記載されている資源

記載されている資源は、地域風景資産や界わい宣言といった条例に基づく住民の風景づくり活動のある場所(世田谷区)や四季の彩りとして季節ごとに楽しめる植物のある場所(柏市)、年中行事・イベント・スポーツ・レジャー等の景観(静岡市)などと、見ていくと、必ずしもその地域にしかない特別な資源というわけではない。しかし、それらを地域資源と価値づけ、抽出したことで情報量の多い資源図につながった。

2) 資源図作成過程

資源図作成過程を見ると、長年にわたって様々な主体が関わり作成していることがわかる。例えば柏市景観資

3.4 クラスタ分析

80件の地域資源図をその表現方法(描かれ方)で分類するために、上の表をもとに、資源図数、単位面積あたりの資源図数、1枚の資源図あたりの資源図数、ゾーニング数、地形情報、街路情報、凡例数をデータとして、クラスタ分析を行う。分析の結果、図3.1のように4タイプに分類できた。

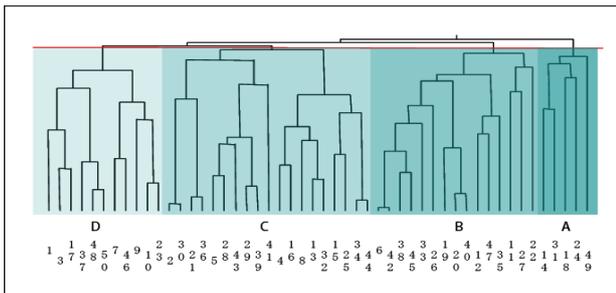


図3.1 クラスタ分析樹形図 ※番号は分析時の50分割Nの値

源ガイドマップは、「景観探検隊」という市民公募のまち歩きを行い、「市民に柏の景観を発見してもらおう」という方向性のもと、行政・市民・大学関係者らが協働で作成した(図3.3)。世田谷区でも、昭和59年から景観百選や境界賞などの地域資源の発掘と普及啓発活動が行われ、資源図作成へとつながっている。

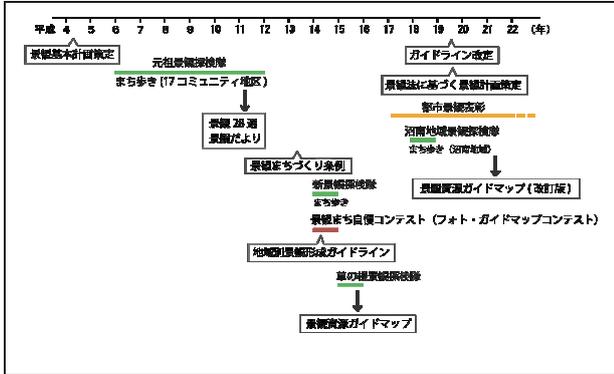


図3.3 柏市景観資源ガイドマップ作成過程

3) 地域の特徴

地域の特徴をあげると、人口がやや多い住居系市街地という点にある。このことから、前述した住民の参加が相対的に見て行いやすい環境であったといえ、逆に地域に主だった特徴がなかったからこそ、住民参加というプロセスを踏み、資源図を作成したともいえる。実際、「これといった景観づくりの中心がないので、景観の特徴を際立たせるために3つの独自の視点で見た(平塚市)」「うちは住宅地でなにか重要な資源などがあるというわけではないから、みんなで一緒に風景をつくっていくというスタンスでやっている(世田谷区)」というお話も伺え、資源図作成が資源の価値付けにつながったタイプといえる。いずれにしても、資源図自体には多くの情報が載り、地域のイメージを誘発するような地図になっている(図3.4)。



図3.4 世田谷区風景づくり資源図(世田谷地域)

3.5.2 タイプB 多資源・複数枚型

このタイプは、記載されている資源数が多いが、資源の密度を見ると、約半数が1個/km²を切るなど、その値は大きくはない。15件の地域資源図のうち、複数枚の資源図を用いて資源を表現しているものは14件あり、地図の大きさ自体も、景観計画のページ半分程度のサイズのものも多く、タイプAの資源図ほど、1枚1枚の情報量は多くない。

1) 記載されている資源

複数枚の資源図が存在しているタイプBには、資源図がエリア別に分けられているもの(〇〇地区、△△地域)と、資源の要素別に分けられているもの(歴史系資源、自然系資源、都市系資源など)の2通りがある(タイプBには、エリア別4件、要素別5件、エリア別+要素別5件)。特に、要素別の資源図はテーマがはっきりしているため、1枚1枚に記載されている資源は分かりやすくなっている。例えば一関市景観計画では、市の景観資源を「山」「川」「里」「街」「道・駅」「歴史・文化」と6つの要素に分けて表示している(図3.5)。そのため、資源図の凡例数も1枚2~4つ程度で単純なつくりになっている。

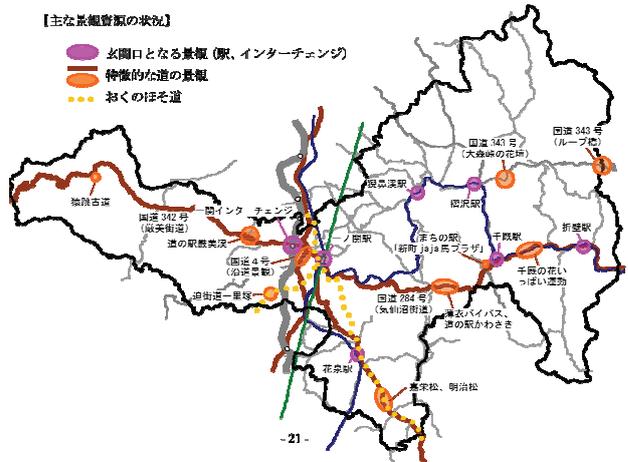


図3.5 一関市主な景観資源の状況(道・駅の景観)

2) 資源図作成過程

タイプBの15件中8件の資源図が景観計画の中の景観形成方針に位置づけられていた。よってこれらの資源図は景観計画策定委員会の中で検討され、作成されたものが多く、単純な作成過程となっている。例えば伊勢崎市の資源図は、市民参加組織いせさき風景探偵団で資源を抽出し、景観計画策定委員会や検討部会における意見交換を経て作成された。

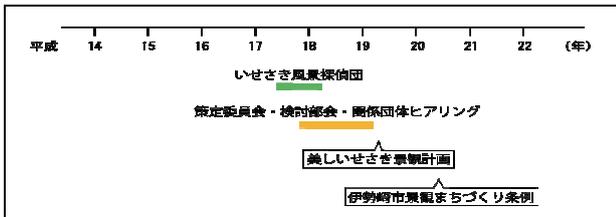


図3.6 伊勢崎市資源図作成過程

3) エリア別・要素別資源図

タイプBに限らず、エリア別に分けている資源図は、土地利用や景観特性、地形などの地理的条件の違い、市町村合併などの理由によって分けられている。

また、資源の要素別に分けられているものは、景観形成基本方針に準じたもの（港区）や、直前の市町村合併に伴い、元の地域単位にこだわらず、全体の一体感を大事にしたい（一関市）などの理由が見られたが、何よりも資源を要素ごとに分けるとわかりやすいという理由が大半を占めた。

3.4.3 タイプC 少資源・単数枚型

28件の地域資源図がこのタイプとなった。これまでのタイプA・Bと対照的で、28件中25件の地域資源図が1枚で表現されており、記載されている資源の数は少ない。また、街路情報、凡例数も少なく、地図がより簡略化されていることが分かる。

1) 資源図作成過程

作成過程を見ると、比較的単純なものが多い。遠野市は地図作成の際に、あまり複雑な仕様をせず、できるだけ概念で捉えうる簡単な地図づくりを念頭に置いていた（図3.7）。



図3.7 遠野市景観領域区分図

また、守谷市は「私の好きなもりや30景選定事業」で選ばれた資源を、守谷のイメージ色である緑色ベース

の地図の上にそのままプロットして作成した。タイプCの資源図は資源図作成自体に力を入れていないものもあるが、あえて地図の情報を限定することで、地域イメージを簡単に伝える分かりやすい地図になっている。

2) 地域の特徴

地域の特徴をみると、人口も少なく、北海道・東北地方の地域資源図全12件中5件がタイプCに見られることから、都会の住宅地よりも地方の農村地帯に多くみられるタイプであることが分かる。

3.4.4 タイプD 平均型

このタイプは、記載されている資源数はやや少ないがそのほかの表現を見ても平均的タイプであることが分かる。複数枚の資源図があるが抽出した資源数がタイプBほど多くないものや、単数枚であるが資源数がタイプCほど少なくないものなど、タイプBとタイプCの境界に位置するタイプである。

1) 資源図作成過程

作成過程を見ると「本当はもっと資源を載せたかったが、紙面の都合でこの量になった（秋田市）」、「とりあえず資源としてこんなものがあるということを示した（上越市）」「都市マスタープランでもともと描かれていたものに、ピックアップした資源を載せた（宇都宮市）」など、あえて情報を少なくしたものもあれば、たたき台という位置づけで載せたもの、以前の計画や景観選定事業を受け継いだものなど様々見られた。

2) 地域の特徴

資源図が描かれた地域に注目すると、北海道・東北地方の地域資源図全12件中6件がこのタイプDに見られた。しかし、人口・面積の値にはばらつきがあり、一概に地域の特徴は言えない。

4. 地域資源図の事例考察

4.1 事例の選定

今後、資源図作成の際に、示唆に富むと思われる事例を選定する。現時点でその地域の特色にあった工夫などが見られる事例を以下で考察した。

4.2 事例考察

1) 柏市景観資源ガイドマップ（タイプA）

写真や断面図、景観イメージ図などが用いられ、できる限り市民が場所を特定できるような工夫がなされている。また、計画の届け出のフローの中に位置づけることで、建設行為の際、事前協議に利用されている。

この事例は、資源図の役割として、住民が見逃してしまいがちな地域資源を価値づけ、そしてその資源が、景観計画の適合審査において活用できることを示唆している。地図上に多くの資源を載せることで、その価値は高まる。

2) 世田谷区風景づくり資源図(タイプA)

条例に基づく住民の風景づくり活動がある場所や、計画で定めた風景づくりの方針や基準との関連を示しながら資源が示されている。届け出の際、「風景づくりの資源調査票」の提出が義務づけられ、事業者は必ず資源図に目を通すことになる。

この事例は、資源図が建設行為の際、より大きな役割を持つための方法論を示している。また、住民が直接関わる風景づくり活動を資源として記載することで、住民の意識を育てる役割も果たすと考えられる。

3) 一関市景観資産候補例位置図(タイプD)

昔から地域に伝わる絵地図(陸奥国骨寺村絵図)の情報が記載されている。中世の荘園形態から集落の構造が変わっていないという点を除けば、何の変哲もない農村集落だが、樹木や生け垣なども資源として価値づけられ、重要文化的景観にも選定された。

この事例は、住民が地域を見直すことから始まった絵地図への注目、現地調査などの資源図作成の取り組みが、農村集落における、景観村づくりのヒントを示している。

4) 唐津市景観資源のまとめ(タイプD)

景観資源がテーマごとに分かりやすいルートで有機的につながれて記載されている。

この事例は、地域資源が広範囲に散在することから資源をうまく生かすことができていない地域(通過型観光形態の観光地など)に対して、その資源を結びつけるルートを設定し、地図に記載することで、回遊性、アクセス性などの複合的な価値を高め、地域資源を活用した観光の振興、地域の活性化につなげる可能性を示している。

5) 守谷市景観資源図(タイプC)

景観30選事業で選ばれた資源がそのまま記載されている。守谷市には重要な歴史的資源が少なく、緑の保全が市の景観施策の一つの目標に掲げられている。記載されている43個の資源のうち32個が自然に関する資源となっており、緑色ベースの分かりやすい地図となっている。

この事例は、地域の資源が明らかな地域の単純で分かりやすい地図づくりのヒントを示している。

5. まとめと課題

本研究は、景観法に基づく景観計画において、すべての資源図の作成過程を把握し、タイプ(A~D)ごとに、地図の描かれ方や記載された資源、作成過程、地域の特色との関係性を把握した。

また、事例を考察したことによって、地域資源が明らかでない地域や住民が十分に資源を認識していない地域、資源が散在していることでそれを活かしていない地域における、地域資源図の作成方法や、具体的な地図表現で参考になる点を抽出した。地域の資源が明らかな地域においても、そのイメージを伝える資源図づくりのヒントを得た。

景観法に基づく景観計画の策定数は増加傾向にあるが、地域資源図を有効に活かした事例はまだ少ない。地図はあくまで補助的なものという考えで、その活用という視点にたっている自治体は非常に少なかった。

地域資源図はその作成過程で住民の地域に対する意識を育てるという役割はもちろん、資源図自体を計画内うまく位置づけることで、まちづくりの道具となる可能性がある。今後は、地域の特徴や将来像にあわせて、景観計画と一帯となった地域固有の資源図作りが望まれる。

【参考文献・注】

- 1) 真鍋達太郎・小泉秀樹・大方潤一郎:「インターネット書き込み地図方情報交流システム「カキコミマップ」の課題と展開可能性」都市計画学会論文集, No. 38-3, pp. 235-240, 2003
- 2) 真鍋達太郎・小泉秀樹・大方潤一郎:「インターネット地図方掲示板での情報の収集・蓄積と議論の展開 - 三鷹市基本計画改定でのeコミュニティカルテの運用を事例に -」都市計画学会論文集, No. 40-3, pp. 85-90, 2005
- 3) <http://upmoon.t.u-tokyo.ac.jp/kakikodocs/select.html>
- 4) 田村博美・多胡進:「地域資源の評価に関する研究 - 地域の文脈を継承した街づくり計画のための基礎的研究」日本建築学会計画系論文集, No. 541, pp. 153-159, 2001
- 5) 秋田典子・佐土原聡:「地域住民に対する住民の評価構成に関する研究 - 福島県原町市での分析 -」日本建築学会計画系論文集, No. 545, pp. 101-106, 2001
- 6) 加藤清子・横内憲久・岡田智秀:「近江八幡市における景観法に基づく景観計画の策定プロセスと運用実態に関する研究」景観・デザイン研究論文集, No. 3, pp. 103-114, 2007
- 7) 松井大輔・岡崎篤行:「自主条例から移行した法定景観計画における制度内容の進展状況と課題 - 全国における景観計画の運用実態に着目して -」日本都市計画学会都市計画論文集, No. 44-3, pp. 7-12, 2009
- 8) 佐藤典彦・堀裕典・小泉秀樹・大方潤一郎:「景観法における建築物規制の運用実態と課題 - 景観計画に基づく届け出制度に着目して -」日本都市計画学会都市計画論文集, No. 43-3, 217-222, 2008
- 9) 室田昌子:「景観法に基づく景観計画における建築物等の景観形成基盤に関する考察 - 神奈川県景観行政主体を対象として -」日本都市計画学会都市計画論文集, No. 43-3, pp. 655-660, 2008
- 10) 大澤昭彦:「景観計画による高さ制限の現状と課題」土地総合研究 Vol.15.No.4, pp.90-110
- 11) 横山公一・面川英確・天野光一:「景観計画における眺望景観に関する基礎的研究」景観・デザイン研究論文集, No. 5, 2009
- 12) 小浦久子:「景観法における景観計画の構成と運用実態に関する研究 - 初期に策定された景観計画を事例として -」日本都市計画学会都市計画論文集, No. 43-3, pp. 211-216, 2008
- 13) 中村昌広:「まちづくりへの参加の新しい局面とその道具としての『ガリバー地図』」日本都市計画学会学術研究論文集, No. 24, pp. 511-516, 1989
- 14) 柏市都市緑政都市計画課:「柏市景観だより vol.1-5」1995-1999
- 15) 岡崎均:「資源図を活かした風景づくり計画」季刊まちづくり 12, pp. 47-49, 学芸出版社
- 16) 国土交通省都市・地域整備局都市計画課景観室HP
- 17) 各景観行政団体HP